



17WCEE 17th WORLD CONFERENCE ON EARTHQUAKE ENGINEERING

With Bosai / Disaster Management Expo in Sendai

報道機関各位

2020年6月22日
第17回世界地震工学会議
組織委員会

第17回世界地震工学会議（17WCEE） 延期後の新開催日程決定のお知らせ

第17回世界地震工学会議（17WCEE）組織委員会（委員長：目黒公郎東京大学教授）では、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大の影響を鑑み、2020年9月に仙台市で開催予定の17WCEEをおおむね1年程度延期することを決め、日程の再調整を進めてまいりました。

このたび、延期後の開催日程が決定いたしましたのでお知らせいたします。新たな開催日程は2021年9月27日(月)～10月2日(土)です。会期の短縮はせず、会場も当初の「仙台国際センター」（宮城県仙台市）で変更はありません。

会期中の新型コロナウイルス感染予防に関しましては、関係機関と連携し、適切な対策を講じてまいります。また、感染予防の観点から、参加形態を変更し、一部の参加者がインターネットを通じたリモート参加となる可能性があります。

会期中のスケジュールやイベント等の詳細は、決まり次第、下記の公式ウェブサイト、Newsletter等を通じてアナウンスいたします。17WCEEの概要については、次ページをご覧ください。

引き続き17WCEEに対するご支援、ご協力をお願い申し上げます。

以上

17WCEE 公式ウェブサイト：<http://www.17wcee.jp>

【問い合わせ先】

第17回世界地震工学会議事務局（日本コンベンションサービス株式会社）

Tel：03-5510-7656

E-mail：17wcee@convention.co.jp



17WCEE 17th WORLD CONFERENCE ON EARTHQUAKE ENGINEERING

With Bosai / Disaster Management Expo in Sendai

【世界地震工学会議とは】

「世界地震工学会議」は、1956年から4年に1度、世界各地で開催される地震工学分野で最大規模の国際会議です。世界の地震災害の軽減を目指し、耐震・防災技術や社会制度、教育やトレーニングシステムの開発などハードとソフトの両面からの地震防災対策について世界各国の研究者が意見を交わします。

チリで開催された第16回世界地震工学会議において、開催地として立候補していた日本（仙台）・インドネシア（バリ島）・ニュージーランド（オークランド）・メキシコ（カンクン）の4都市の中から、投票により日本での開催が決定しました。

日本での開催は1960年（東京・京都）、1988年（東京・京都）に次いで3回目です。日本の地方都市単独での開催は、今回の仙台市が初めてとなります。東日本大震災の経験や教訓に基づき「防災環境都市・仙台」としてのまちづくりを推進している仙台市での開催は、地震災害の軽減に向けて大きく貢献する場となることが期待されます。

【会議概要】

- (1) 参加予定者数 約3000人（海外1500人、国内1500人）
- (2) 参加予定国数 約80の国と地域

※国際地震工学会（IAEE）加盟国59の国・地域を含む

【招致活動の経緯】

- 日本地震工学会は、観光庁、仙台市との連携のもと招致活動を展開してきました。内閣総理大臣、内閣府特命担当大臣（防災）、文部科学大臣、復興庁長官、国土交通大臣、観光庁長官、仙台市長、JNTO（日本政府観光局）理事長名の招請状を国際地震工学会に提出しました。
- 第16回世界地震工学会議の会場では日本ブースを設け、会議参加者に対し招致活動を展開。最終プレゼンテーション前日には、在チリ日本大使館の協力を得て、日本地震工学会及びJNTO、仙台市によるジャパン・ナイトを在チリ日本大使公邸にて開催しました。ジャパン・ナイトでは、各国代表に対し、和食や茶道、和太鼓など日本文化を堪能する機会を設け、開催地としての日本と仙台市の魅力をPRしました。